※令和４年度以降入学生用

学校番号	106

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「新・高校生の美術１」　（日本文教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・基礎技術のデッサンから始まり、絵具による色彩効果による伝達（デザイン）、絵画制作、粘土による立体造形などで美術の基礎的な技術の習得と、作品を感じ取り、分析し、深く思考する「鑑賞」の分野について学習する。
・一人ひとりの思考、感受性、見方の違いを活かし、基本的な内容を学習する。各表現形式の特性や形体・色彩・技法などに着目して、自分の思考、感受性、見方を豊かにすることを目標とする。多彩な表現を様々な角度で「鑑賞」し、さらに理解を深め、美術に対する見識を深める

2　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，美的体験を重ね，生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに，意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。
(2) 造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり，価値意識をもって 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，美術文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができる。	・造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想している。 ・価値意識をもって 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み組もうとしている。 ・生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，美術文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができる。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

1学期	静物デッサン	【鑑賞】【デッサン】 【モチーフ制作】 ・紙による幾何学形態のモチーフ制作 ・鉛筆デッサン ・他者の作品を鑑賞し、作品の持つ特徴を理解し考察を深める。	a:正しい展開図を知り、立体を組み立てることができる （知） a：溝引きや、べた塗りを使用し色面を色彩豊かに美しく彩色することができる。（技） a:他者の作品を鑑賞し、作品の特徴を捉え、作品の意図を深く理解しようとしている。（知・鑑） b:幾何学形態の美しさや陰影の深さについて考察することができている。（思） b:他者の表現する作品の描写・色彩表現について、どのような目的で制作しているか深く理解しようとしている。（思・鑑） c: 積極的に講評に参加して、様々な表現方法を知り、学んだことをワークシートに詳細に書くことができる。（態） c:主体的に表現活動に取り組み、講評では自身の作品をプレゼンすることができる。（態・鑑）	作品 作品 ワークシート	アイデアスケッチ ワークシート	ワークシート 観察
		【色彩研究】【デザイン】 ・色彩の持つ特徴について理解し、色合わせをすることによってその効果を知る。 ・色彩の色合わせに応じたシンメトリーの図形を作成することで表現する。 ・溝引きなどの基本的な技法を知り色彩豊かに色面を構成する。 ・他者の作品を鑑賞し、作品の持つ特徴を理解する。	a:色彩の組み合わせがもたらす効果について正しく理解し、その効果を利用してテーマをよりよく伝達するための配置を考えることができる。（知） a:アクリル絵の具を均一に美しく彩色することができる。（技） a:色彩の組み合わせによって効果的に表現された図形を鑑賞し、自身の作品と他者の作品のもたらす色彩の印象の違いについて考察することができる。（知・鑑） b:色彩の組み合わせにふさわしい、図形を創造的に構想を練ることができる。（思） b:図形を色彩研究で使用することによって色彩の効果を、視覚で分かりやすく表現することを目的に制作に取り組むことができる。（思・鑑） c: 積極的に講評に参加して、様々な表現方法を知り、学んだことをワークシートに詳細に書くことができる。（態） c:主体的に表現活動に取り組み、講評では自身の作品をプレゼンすることができる。（態・鑑）	アイデアスケッチ 作品 ワークシート	アイデアスケッチ 作品	ワークシート 観察

※令和４年度以降入学生用

2学期	絵画	【鑑賞】【絵画】 【木の描写】 ・光の作用と陰影について学ぶ。 ・一学期に学んだ描写技術を活かした絵画の技法を身につける。 ・空気遠近法や明度対比を用いて、枝・葉っぱの重なりや奥行きを表現する方法を知る。 ・他者の作品を鑑賞し、モチーフの着眼点を知る。	a:モチーフの陰影をつける方法と気の質感や空気遠近法について正しく理解することができる。（知） a:モチーフの形状を正しくとらえ、アクリル絵の具で色彩豊かに表現することができる。（技） a:画家たちが用いた技法の意図について正しく理解することができ、創造的に表現につなげることができる。（知・鑑） b:光の三原色から着想を得て、隣り合う色彩を意図的に配置することができる。（思） b:他者の作品を鑑賞し、どのような配色を行いどのような効果を得ることができているかを知ることができる。（思・鑑） c: 積極的に講評に参加して、様々な表現方法を知り、学んだことをワークシートに詳細に書くことができる。（態） c:主体的に表現活動に取り組み、講評では自身の作品をプレゼンすることができる。（態・鑑）	作品 作品 ワークシート	作品 ワークシート	ワークシート 観察
3学期		【鑑賞】【絵画】 【粘土による立体表現】 ・石粉粘土を使用し、モチーフを模刻する。 ・他者の作品を鑑賞し、作品の持つ意図を理解する。	a:制作作業を通して、粘土素材の水加減や道具によるテクスチャーのコントロールを理解することができる。（知） a:粘土でモチーフを美しく成形することができる。（技） a:鑑賞の観点から素材の特性を理解し、利用した表現を用いている作品について理解を深めることができる。（知・鑑） b:意図的に、素材を利用した構想を、創造的に練ることができる。（思） b:様々な表現方法から、適切なものを選び自己表現につなげるために見方や感じ方を深めることができる。（思・鑑） c: 積極的に講評に参加して、様々な表現方法を知り、学んだことをワークシートに詳細に書くことができる。（態） c:主体的に表現活動に取り組み、講評では自身の作品をプレゼンすることができる。（態・鑑）	作品 作品 ワークシート	アイデアスケッチ アイデアスケッチ	ワークシート 観察

※令和４年度以降入学生用

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度